

令和7年度学校自己評価システムシート（私立 立教新座中学校）

目指す学校像	キリスト教に基づく人間形成を実践し、自由と自律を尊重する開かれた学校を目指す。
--------	---

重点目標	1 基礎学力の定着と旺盛な学習意欲を育成し、真理を探究する力を養う。 2 価値観の違いを認識して、その経験を糧に大きな視野を備えた人物を育成する。 3 キリスト教に基づく隣人愛としなやかな個性を育成する
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

学校関係者 9名
生徒 0名
事務局(教職員) 4名

学校自己評価					
年度目標			年度評価（3月31日現在）		
番号	課題	課題に対する取り組み	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	・教職員研修	・研修への参加奨励 ・研修を受けやすい環境の整備	・教科、部署、部活動等における研修に参加 ・ハラスメント防止対策委員会・人権教育推進委員会共催講演会「保護者対応」受講 ・学院主催のハラスメントに関するオンライン研修（1回）受講 ・応急処置研修会「熱中症、アナフィラキシーの対応」、心肺蘇生法実習の実施 ・ICT講習会実施(複数回)	B	・研修の充実 ・研修を受けやすい環境の整備 ・非常勤講師を含む教職員全体に対する研修への参加奨励
	・教育環境の整備	・ICTを活用した教育活動の充実 ・教務システムBLENDの利用拡大 ・ICT環境の整備 ・各施設・設備・安全および老朽化対策	・ICTを活用した教育活動の展開 ・図書館学内データベースの利用拡大 ・希望する教科・科目による定期試験答案のデジタル返却 ・教務システムBLENDを利用した通知表デジタル開示、メール配信 ・ICT環境の整備(教員用iPad更新、ICT支援員の配置（2名継続）) ・施設・設備・安全及び老朽化対策(中学2・3年生普通教室の床改修および壁塗装、セントポールズ・ジムの空調更新、中学放送室放送卓更新、3号館校庭漏水対策)		・ICTを活用した教育活動のさらなる充実 ・ICT環境の整備(教員用iPad更新、ICT支援員の配置（2名継続）) ・施設・設備・安全及び老朽化対策(礼拝堂・チャペル会館空調更新、2号館全熱交換器更新（空調）)
2	・人権教育やボランティア活動	・人権教育の充実 ・ボランティア活動の機会の提供 ・いじめ・ハラスメント問題の啓蒙活動 ・いじめ防止対策の充実	・人権週間(6月)のチャペルアワー講話 ・学年ごとにテーマを決め人権教育実施 ・いじめアンケートを年3回実施 ・「教職員研修」記載の研修実施 ・各種講演、ボランティア活動に関する学外プログラムを生徒用ホームページにて案内	B	・人権教育の継続と充実 ・実施可能なボランティア活動の機会提供 ・いじめ・ハラスメント問題の認識深化に向けた啓発活動
	・情報リテラシー教育	・インターネットの安全な利用やマナーの指導	・全学年、外部講師による講習会を実施		・講習会の継続 ・iPadの適正な利用
	・グローバル教育	・本校のグローバル教育の推進 ・立教英国学院との留学制度推進 ・リーダーシップの育成	・米国サマーキャンプ実施 ・ブリティッシュヒルズ英語研修実施 ・社会科主催海外研修プログラム（フィンランド）実施		・立教英国学院への留学制度の推進と充実 ・留学生受け入れ
3	・学校生活の支援	・生徒会活動のサポート ・スクールカウンセラーとの連携 ・特別支援教育の充実 ・学校活動の可視化	・中学各学年キャリア教育実施 ・生活のアンケートを各学期に実施。心配な生徒についてはその後担任面接、さらにスクールカウンセラー等の面接実施。 ・特別支援教育委員会主催の教職員向け講演会を実施 ・特別支援対象の生徒のスクリーニングの実施 ・Facebook、Instagramの充実	B	・保護者会や同窓会との連携強化 ・学校活動の可視化の継続と充実

学校関係者評価
実施日 令和8年6月15日
学校関係者からの意見・要望・評価等
多忙な現場において、ハラスメント対策や危機管理、ICT等の実践的研修を継続している点を高く評価する。一方で、非常勤講師などを含む全教職員への各種研修の確実な普及と、研修の必須度合いの明確化に努めていただきたい。また、時間的制約の解消に向けたオンデマンド研修の導入や、教職員の心身の健康を阻害しないための環境整備を進め、持続可能な運営体制を構築していただきたい。
ICT環境の着実な整備やBLENDの浸透、空調等の老朽化対策による安全な施設整備を高く評価する。ハード面での更新のみならず、校務職員や外部委託のスタッフからも学校生活における安全の見守りも随所に感じられる。今後は既存の知見を活かし、AIやLINE等の新たなツールの積極的活用とそれに伴う危険性の指導を合わせたICT教育の一層の推進を図っていただきたい。また、計画中の施設・設備更新についても、省エネ推進や安全確保の観点から次年度の確実な実行を期待する。
高頻度ないじめアンケートの実施や、チャペルアワー等を活用した継続的な人権教育を高く評価する。いじめ・ハラスメント撲滅に向けては、関連する指導や研修を「全員必須プログラム」として徹底し、外部のハラスメント相談窓口のさらなる有効活用を推進していただきたい。また、立教学院の目標である「共に生きる」を具現化するため、「清里ボランティアキャンプ」のような学院を挙げたボランティア活動をさらに拡充してほしい。生徒が安全に参加できる学内外のプログラムを精選し、多様な機会の創出に向けた具体的な取り組みに期待する。
全学年対象の外部講習会や保護者向け研修を通じた継続的な指導体制を評価する。ICT教育の推進にはモラル向上が不可欠であり、端末の利便性の裏に潜む危険性については、家庭任せにせず学校で継続して丁寧に指導していただきたい。特に中学生という発達段階を踏まえ、SNS上でのトラブル等を未然に防ぐための実効性のある具体的なルール作りを急務と捉えてほしい。次年度に向けて、生徒がより安全に端末を利用できる環境の整備と啓発活動が一体となって進められることを強く要望する。
中学段階から多様な海外研修や実践的なプログラムが展開されている点を高く評価する。異文化に触れ、自分とは異なる価値観や社会のあり方を知る経験は貴重である。今後は、生徒の視野を広げる大きなきっかけに身近な国際交流として、立教大学に在籍する留学生との交流機会を設けることなどが望まれる。あわせて、一貫連携校・系属校としての強みを活かし、立教英国学院への留学制度の推進など、立教ならではの特色あるグローバル教育のさらなる充実を図っていただきたい。
各種アンケートや面談、特別支援教育など、多層的な生徒支援体制の整備を評価する。中学生は、自分の悩みを言語化することが難しい時期でもあるため、生活アンケートやスクリーニングの継続は大変意義がある。引き続き、一貫校として「一人の生徒も見捨てない」という強い姿勢が保護者や生徒に伝わるようなきめ細かな対応が望まれる。また、学校活動の可視化を更に進め、ステークホルダーからの信頼獲得や、次世代の志願者確保にも繋げてほしい。